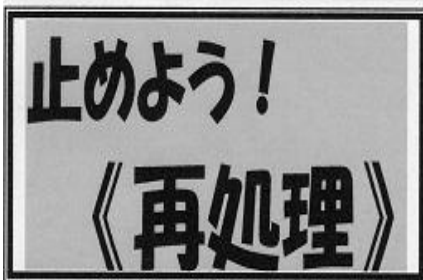


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
 2015(平成27)年
 2月11日
 第151号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

再処理工場の新規制基準には 重大事故シミュレーションが 抜けている

政府要請行動報告 **その1**

人と環境を守るのが使命



原子力規制庁など14名の担当者



要請書提出の市民団体代表

再処理工場新規制基準 適合審査への要望書提出 政府側担当者との意見交換会

「再処理工場で絶対に重大事故を起こすな」とする政府への要請書を提出する市民の行動が、一月三十日、参議院議員会館で行われました。

昨年一月に日本原燃が原子力規制委員会に提出した「六ヶ所再処理施設に関する新規制基準適合確認に係わる申請書」をめぐって原子力規制庁や防衛省などの一四人の担当者と提出市民団体が約二時間の意見交換会を行いました。この意見交換会は参議院議員川田龍平議員のご尽力で実現しました。その内容を重要六項目にまとめ報告します。(永田文夫・記)

国は高レベル廃液の 超危険性への認識が甘すぎる

「廃液の固化安定化の期限は不明、
 廃液貯蔵ゼロの求めには答えず」

超危険な高レベル廃液

高レベル廃液は六ヶ所再処理工場に二〇二立方メートル、東海再処理工場には三九四立方メートルが貯蔵されています。

含まれるセシウム137の総量は福島第一原発から大気中へ放出されたセシウム137の量の各約三五倍、約七九倍に相当します。廃液に

はこれ以外のストロンチウム90、超ウラン元素等の核種も多量に含まれています。冷却が止まると約二四時間で沸騰が始まり、約三五時間で水素が爆発濃度に達します(日本原燃報告)。このままだと危険なのでガラスで固化しなければなりません。現在、不安定な液状で貯

蔵されています。ハザード危険性を認めたJAEA

東海再処理工場の事業主体の日本原子力研究開発機構(以下JAEA)は以下のような問題提起をし公表しました。

「既に多くの高放射性廃液を保有している。可能な限りこの溶液を固化、安定化することで潜在的ハザードを低減し、施設の安全性を高めることが重要であると認識している」としその危険性を認めました。

あと二年もかかる
ガラス固化

そこで、その東海工場での固化作業の進捗具合はどうかを要請書で問いました。回答は高レベル廃液について「作業に必要な設備の故障により現在もまだ作業が開始されていない」とのことでした。

一方の六ヶ所再処理工場の事業主体日本原燃(以下JNFL)は高レベル廃液タンク毎の沸騰時間や水素爆発到達濃度時間などの資料や廃液組成についてストロンチウム90の濃度等を国に知らせてお

政府への要請書の骨子

宛先 安倍晋三内閣総理大臣・原子力規制委員長

・経産・国交・環境・防衛各大臣

提出 花とハーブの里、当会など9市民団体（賛同全国33市民団体）

《 要請・質問事項 》

- 1, 高レベル放射性廃液の現状とガラス固化の見通し
- 2, 再処理工場の重大事故防止対策について
- 3, 六ヶ所アクティブ試験について
- 4, その他 緊急時避難計画策定、トリチウム等の放水基準の矛盾点、原子力規制委員会の使命など。

重大事故対応の審査穴だらけ

「重大事故のシミュレーションなしで
公衆防護、住民避難計画は出来ない」

西ドイツとルウェー政府の シミュレーション

再処理工場について「高レベル廃液貯槽の冷却が完全停止すると最終的死亡者数は西独全人口の半分の三千万人に上る可能性がある」という旧西独政府のシミュレーションや、ルウェー政府の「英国再処理工場の事故を想定したシミュレーション」があります。日本政府にシミュレーションを求めましたが「国としては行なっていない」という回答でした。シミュレーションなしに公衆防護・避難計画は作成できないのではないかと、シミュレーションを実施し公開するよう求めましたがいづれにも答えはありませんでした。

ミサイル攻撃を受ける 恐れはないか？

防衛省担当者の回答は工場へのミサイル攻撃に対して多層な迎撃ミサイルで防護できるという答えでした。

迎撃ミサイルの精度が不明で、多数のミサイルが打ち込まれたら全てに対応できるはずがありません。「万一が被害が生じたならそれを最小にする」とのことですが、原子力施設の重大事故において放射能を閉じ込めることは不可能です。原発の何十倍もの放射能を貯蔵している再処理工場について、新規基準でミサイル攻撃を受けた場合の対応について審査しないことは、平和ボケした安易、極まりないものです。

関連して参加市民からは「集団的自衛権」を容認し他国の戦争に関与する等は、原発や再処理など危険な施設を抱えた日本の取るべき政策ではないという意見が出されました。

東海再処理工場を 大津波が襲った時

福島第一原発を襲った3・11の大津波が東海再処理工場に押し寄

せた場合の評価についても、国は実施していません。

私たちは二〇一一年一月JAEAに同じ質問をしました。その回答には海水が高レベル廃液のセル内に入りタンクを冷却出来るとする記述がありました。機密性が高いセルに、海水がタンクを冷却できるほどのレベルまで侵入するか疑問です。その海水で大量の放射性物質が冷却され沈静化出来るとするのは後付けのこじつけです。

今回出席の規制庁担当者はさすがにそのような理屈には同調しませんでした。同じ発言が未だにJAEAの幹部から発せられていることが東海村からの参加者から報告されました。この問題を安易に捉え、潜在的ハザードを理解出来ないリーダーがいるというところは恐ろしい現実です。

あの日大津波が東海村を襲っていたならば、高レベル廃液の冷却は止まり、沸騰し、硝酸塩や水素ガスが発生し爆発して、放射能の大放出

が起こって首都圏に人が住めない大惨事になつていた可能性が高いのです。

同時多発的事故は 起らないのか？

「再処理工場で様々な事故が同時に起こる多事故への備えはどうなっているか」という質問には、「新規基準において、重大事故が同時に連鎖して発生することを想定し、重大事故の発生防止、拡大防止の措置を講ずることを希望し審査を行っている」という回答でした。しかし現在の審査はせいぜい数カ所に連鎖した事故が起こることを想定しているだけです。世界中の再処理工場ではさまざまな理由によりさまざまな事故が起こっています。大地震によるばかりでなく別々の事故が同時に多発する可能性があり、人的に施設的に対応できるのか、新規基準にはもつと高度なレベルでの対応が必要であり、危機意識が欠如しています。

原発の「レド・キャッチャー」の 最後の防壁 手段があるのか？

「レド・キャッチャー」の最後の防壁手段があるのか？

高レベル廃液の沸騰や爆発を止める見込みがなくなった最悪の場合の対応について、原発のコアキャッチャーのようなものを考えているのかを問うたのですが、答えはありきたりのセル内漏洩の対応を述べるに留まり、回答になっていませんでした。

このような最後の手段がなければ、再処理をやる資格はありません。国を滅ぼしかねない大量の放射能を扱っているながら安全上の深層防護の手段がないことは許されません。

新審査項目に「再処理工場の重大事故シミュレーション」「ミサイル攻撃」「大津波」「同時多発事故の発生」「最後の放射能閉じ込め」などの深層防護手段が設定されねばなりません。重大な基本的情報を国民に示さずに審査し合否を判定することは無責任と言わざるをえません。（以下 次号に続く）

お知らせ

意見交換会の模様は左のWEBで動画が見られます。
<https://www.youtube.com/watch?v=KyaWi4W13U>